



熊谷市 記者クラブ取材情報

令和元年6月27日発表
担当課:スポーツ観光課

事業の名称等
熊谷うちわ祭について

- 日時 令和元年7月20日(土)～22日(月)
- 場所 熊谷市街地、お祭り広場ほか
- 事業概要
熊谷で江戸時代から続く八坂神社の祭礼。“関東一の祇園”と称され、例年、3日間の開催中に約75万人の観光客が訪れる、本市を代表するお祭りです。疫病退散、五穀豊穰など人々の祈りや願いを込めて始められました。名前の由来は、渋うちわを客にふるまったことによります。
21日、22日には、国道17号を含めた市街地で交通規制が行われ、12台の山車・屋台が勇壮な熊谷囃子を響かせながら巡行します。
- 特徴やPRポイント
「令和最初のうちわ祭」
熊谷うちわ祭の歴史と文化を大切にすると共に、新たな元号の幕開けを奉祝し、令和最初の熊谷うちわ祭として新たな歴史を刻みます。
20日「熊谷駅正面口での初叩き合い」
うちわ祭初日の見どころである熊谷駅正面口での初叩き合いは、駅舎を背にして東側に屋台、西側に山車が一行に勢揃いします。屋台の後ろには、駅舎壁面に装飾された「ラグビーワールドカップ」の文字とロゴが配置され、今年限りの絶好のシャッターチャンスとなっています。一行に並んだ山車・屋台から響き渡る、迫力あるお囃子の音色が、熊谷の暑い夏を熱く盛り上げます。
21日「巡行祭」
本年の7月21日の巡行祭は、年番町区である弥生町から出発した各町の山車・屋台が、国道17号を中心に二列で巡行します。夜には八木橋前に扇形に集結した山車・屋台が叩き合いを行います。
- その他
熊谷うちわ祭令和元年年番町 彌生町区 大総代 栗原 弘(くりはら ひろし)
連絡先 090-4001-6046

資料の有無(有) ・ 無)

担当者 熊谷市総合政策部スポーツ観光課 横森、小松原
連絡先 048-524-1111 内線312

関東一の祇園 熊谷うちわ祭

神人和楽



令和元年

7/20

土 渡御祭
初叩き合い

・21

日 巡行祭
曳っ合せ叩き合い

・22

月 曳っ合せ叩き合い
年番送り／還御祭

令和元年 年番町 彌生町区
大総代 栗原 弘

お問合せ TEL 048-527-0002
http://uchiwamatsuri.com/



KUMAGAYA UCHIWA MATSURI

熊谷市指定無形民俗文化財



熊谷うちわ祭公式ガイド 2019

関東一の祇園 熊谷うちわ祭

うちわ祭は、当地に鎮座する八坂神社のご祭礼です。八坂神社は、文禄年間（一五九二）に京都八坂神社を勧請し、現在鎌倉町にある愛宕神社に合祀されたものであります。

熊谷の夏祭りの起源を示す最初の記録は、江戸中期の寛延三年（一七五〇）に、当時各寺社ごとに行っていた祭りを町内統一の祭りにする上申書でありました。町役人の許可により、以来町内全体の祭りとなり、現在の祭りの形態が作られました。

その頃の祭事係は、祭りの期間一躍町役人と同じ力を持ち、祭りのすべてを取り仕切る祭番となり、形態とともに権限も脈々と受け継がれております。

天保年間（一八三〇）は祭りの中興の時代といわれ、重さ二〇〇貫の神輿が新調され、祭りの原点ともいえる全町合同の神輿渡御が始まりました。

またこの頃より、町内各店が祭りの期間中、買物客に赤飯をふるまったことから、「熊谷の赤飯ふるまい」として評判となり、祭りの名物となりました。

「うちわ祭」の名称の由来は、夏の祭りで配布されていたうちわを原点として、明治三十五年頃より、料亭「泉州楼」の主人がうちわを配付したことにありと語り継がれています。東京での修行中に、うちわが飛び交うことで知られていた「天王祭」からの影響を受けた主人は、老舗「伊場仙」から洪うちわを買い入れ、熊谷の祭りで配り始めたことが発端となっております。この「うちわ」の登場が好評を博し、その後各商店でも屋号などを記したうちわを出したため、買物物は「熊谷うちわ祭」の日といわれるようになりました。

時を同じくして絹産業などの発展などにより町はにぎわい、各町競って山車・屋台を購入し、神輿渡御と山車・屋台巡行による現在のうちわ祭の原型はこの時に作られ、今日まで続いております。

このように「町民一体として始まった伝統」「江戸からの祭文化の継承」「自ら熱意で祭をつくり上げてきた熊谷人の心意気」が融合し、今や関東一の祇園として発展しております。

熊谷八坂神社祭礼行事

熊谷うちわ祭年表

昭	和	大	正	明	治	江	戸
20年	8年	13年	42年	39年	35年	31年	27年
昭和初期	昭和初期	大正	大正	大正	大正	大正	大正
八月十四日から十五日未明、終戦直前の大空襲により愛宕八坂神社・宮神輿と、鎌倉区の屋台が焼失。	石原区が、熊谷唯一の四方破風屋根屋台を製作。	熊谷市制施行を契機に、旧石原村の本石区と石原区が巡行行事に参加。	本石区が、屋台を製作。	石原村に上・中・下町三台の屋台が存在していた。その内の二台は、現在の群馬県藤岡市(旧鬼石町)の祭りで使用されている。	鎌倉区が山車を製作。この時期から、地区内における小規模の山車巡行の行事が行われる。	本町一(現・第壱本町区)が地元棟梁に頼み、本町三四の山車を参考にして山車を製作。	筑波区が鴻巣より百三十円で山車を購入。大正5年に製作する山車は、昭和三十五年まで使用される。
大永年間	文禄年間	江戸中期	寛延3年	天保元年	江戸末期	明治初期	明治初期
行源法印(大膳院)が、京都より愛宕権現を勧請。(『明細帳』)	八坂神社を愛宕権現内に合祀。(『埼玉の神社』10頁)	江戸中期(一七〇〇年代初期)において、祇園柱を用いた祭礼が行われていた記録が残っている。(三浦玄昌「汚隆電鑑」)	四月、名主善兵衛以下一〇九名が、祭りを町内一斉に行なうものとするよう町役人に上申。これに尽力した宿役人による祭事御用番「熊谷草分け六人衆」が誕生。祭りは、奴稻荷大明神が所有していた宮神輿を用いる、神輿祭りの形態であったとされる。(熊谷宿祇園祭礼神輿渡御由来覚)	大膳院十五代と石川兵左衛門が浄財を集め、初めて町衆により愛宕八坂神社の神輿が製作される。	夏の祭礼行事は神輿祭りとして定着し、多くの町人が参加するようになる。江戸風の騒がしさが増すようになった。	本町三四(現・第壱本町区)が、江戸神田の紺屋が個人所有する山車を買い受ける。この頃、泉屋横町の料亭「泉州楼」の主人が、名入れの洪うちわを配り好評を博す。	鎌倉区が山車を製作。この時期から、地区内における小規模の山車巡行の行事が行われる。

昭	和	平	成	令
22年	23年	28年	30年	32年
23年	24年	25年	26年	27年
28年	30年	32年	34年	36年
30年	32年	34年	36年	38年
32年	34年	36年	38年	40年
34年	36年	38年	40年	42年
36年	38年	40年	42年	44年
38年	40年	42年	44年	46年
40年	42年	44年	46年	48年
42年	44年	46年	48年	50年
44年	46年	48年	50年	52年
46年	48年	50年	52年	54年
48年	50年	52年	54年	56年
50年	52年	54年	56年	58年
52年	54年	56年	58年	60年
54年	56年	58年	60年	62年
56年	58年	60年	62年	64年
58年	60年	62年	64年	66年
60年	62年	64年	66年	68年
62年	64年	66年	68年	70年
64年	66年	68年	70年	72年
66年	68年	70年	72年	74年
68年	70年	72年	74年	76年
70年	72年	74年	76年	78年
72年	74年	76年	78年	80年
74年	76年	78年	80年	82年
76年	78年	80年	82年	84年
78年	80年	82年	84年	86年
80年	82年	84年	86年	88年
82年	84年	86年	88年	90年
84年	86年	88年	90年	92年
86年	88年	90年	92年	94年
88年	90年	92年	94年	96年
90年	92年	94年	96年	98年
92年	94年	96年	98年	00年
94年	96年	98年	00年	02年
96年	98年	00年	02年	04年
98年	00年	02年	04年	06年
00年	02年	04年	06年	08年
02年	04年	06年	08年	10年
04年	06年	08年	10年	12年
06年	08年	10年	12年	14年
08年	10年	12年	14年	16年
10年	12年	14年	16年	18年
12年	14年	16年	18年	20年
14年	16年	18年	20年	22年
16年	18年	20年	22年	24年
18年	20年	22年	24年	26年
20年	22年	24年	26年	28年
22年	24年	26年	28年	30年
24年	26年	28年	30年	32年
26年	28年	30年	32年	34年
28年	30年	32年	34年	36年
30年	32年	34年	36年	38年
32年	34年	36年	38年	40年
34年	36年	38年	40年	42年
36年	38年	40年	42年	44年
38年	40年	42年	44年	46年
40年	42年	44年	46年	48年
42年	44年	46年	48年	50年
44年	46年	48年	50年	52年
46年	48年	50年	52年	54年
48年	50年	52年	54年	56年
50年	52年	54年	56年	58年
52年	54年	56年	58年	60年
54年	56年	58年	60年	62年
56年	58年	60年	62年	64年
58年	60年	62年	64年	66年
60年	62年	64年	66年	68年
62年	64年	66年	68年	70年
64年	66年	68年	70年	72年
66年	68年	70年	72年	74年
68年	70年	72年	74年	76年
70年	72年	74年	76年	78年
72年	74年	76年	78年	80年
74年	76年	78年	80年	82年
76年	78年	80年	82年	84年
78年	80年	82年	84年	86年
80年	82年	84年	86年	88年
82年	84年	86年	88年	90年
84年	86年	88年	90年	92年
86年	88年	90年	92年	94年
88年	90年	92年	94年	96年
90年	92年	94年	96年	98年
92年	94年	96年	98年	00年
94年	96年	98年	00年	02年
96年	98年	00年	02年	04年
98年	00年	02年	04年	06年
00年	02年	04年	06年	08年
02年	04年	06年	08年	10年
04年	06年	08年	10年	12年
06年	08年	10年	12年	14年
08年	10年	12年	14年	16年
10年	12年	14年	16年	18年
12年	14年	16年	18年	20年
14年	16年	18年	20年	22年
16年	18年	20年	22年	24年
18年	20年	22年	24年	26年
20年	22年	24年	26年	28年
22年	24年	26年	28年	30年
24年	26年	28年	30年	32年
26年	28年	30年	32年	34年
28年	30年	32年	34年	36年
30年	32年	34年	36年	38年
32年	34年	36年	38年	40年
34年	36年	38年	40年	42年
36年	38年	40年	42年	44年
38年	40年	42年	44年	46年
40年	42年	44年	46年	48年
42年	44年	46年	48年	50年
44年	46年	48年	50年	52年
46年	48年	50年	52年	54年
48年	50年	52年	54年	56年
50年	52年	54年	56年	58年
52年	54年	56年	58年	60年
54年	56年	58年	60年	62年
56年	58年	60年	62年	64年
58年	60年	62年	64年	66年
60年	62年	64年	66年	68年
62年	64年	66年	68年	70年
64年	66年	68年	70年	72年
66年	68年	70年	72年	74年
68年	70年	72年	74年	76年
70年	72年	74年	76年	78年
72年	74年	76年	78年	80年
74年	76年	78年	80年	82年
76年	78年	80年	82年	84年
78年	80年	82年	84年	86年
80年	82年	84年	86年	88年
82年	84年	86年	88年	90年
84年	86年	88年	90年	92年
86年	88年	90年	92年	94年
88年	90年	92年	94年	96年
90年	92年	94年	96年	98年
92年	94年	96年	98年	00年
94年	96年	98年	00年	02年
96年	98年	00年	02年	04年
98年	00年	02年	04年	06年
00年	02年	04年	06年	08年
02年	04年	06年	08年	10年
04年	06年	08年	10年	12年
06年	08年	10年	12年	14年
08年	10年	12年	14年	16年
10年	12年	14年	16年	18年
12年	14年	16年	18年	20年
14年	16年	18年	20年	22年
16年	18年	20年	22年	24年
18年	20年	22年	24年	26年
20年	22年	24年	26年	28年
22年	24年	26年	28年	30年
24年	26年	28年	30年	32年
26年	28年	30年	32年	34年
28年	30年	32年	34年	36年
30年	32年	34年	36年	38年
32年	34年	36年	38年	40年
34年	36年	38年	40年	42年
36年	38年	40年	42年	44年
38年	40年	42年	44年	46年
40年	42年	44年	46年	48年
42年	44年	46年	48年	50年
44年	46年	48年	50年	52年
46年	48年	50年	52年	54年
48年	50年	52年	54年	56年
50年	52年	54年	56年	58年
52年	54年	56年	58年	60年
54年	56年	58年	60年	62年
56年	58年	60年	62年	64年
58年	60年	62年	64年	66年
60年	62年	64年	66年	68年
62年	64年	66年	68年	70年
64年	66年	68年	70年	72年
66年	68年	70年	72年	74年
68年	70年	72年	74年	76年
70年	72年	74年	76年	78年
72年	74年	76年	78年	80年
74年	76年	78年	80年	82年
76年	78年	80年	82年	84年
78年	80年	82年	84年	86年
80年	82年	84年	86年	88年
82年	84年	86年	88年	90年
84年	86年	88年	90年	92年
86年	88年	90年	92年	94年
88年	90年	92年	94年	96年
90年	92年	94年	96年	98年
92年	94年	96年	98年	00年
94年	96年	98年	00年	02年
96年	98年	00年	02年	04年
98年	00年	02年	04年	06年
00年	02年	04年	06年	08年
02年	04年	06年	08年	10年
04年	06年	08年	10年	12年
06年	08年	10年	12年	14年
08年	10年	12年	14年	16年
10年	12年	14年	16年	18年
12年	14年	16年	18年	20年
14年	16年	18年	20年	22年
16年	18年	20年	22年	24年
18年	20年	22年	24年	26年
20年	22年	24年	26年	28年

第壹本町区

製作 明治三十一年
寸法 (田)四、八〇〇 (ワ)二、七七〇 (L)四、五五〇
山車 神武天皇
人形 相剋龍虎
見送り幕



第貳本町区の山車を参考に、初めて地元熊谷で製作された山車として注目された。同様に御拝柱と床柱がズレているのが特徴。昭和43年に市の有形文化財に指定された。囃子は山車の製作された明治31年より、岡部の岡下郷の住人たちがやがてきて叩いていた。それが熊谷祇園囃子の始まりとされ、そのまま伝承されてきた。ただし囃子会に女子は参加できない。近年、平成11年と平成19年に山車の改修を行った。

熊谷市指定有形民俗文化財

第貳本町区

製作 天保年間
寸法 (田)四、八五〇 (ワ)二、八〇〇 (L)五、一〇〇
山車 天手力男命
人形 火焔太鼓と長鳴鳥
見送り幕



この戸隠形のお囃子は、遠く天保年間の作とされ、人形は天手力男命。作者は名工の江戸下谷川佐賀町の二代目仲秀英であり、この山車は長く江戸下谷川に参加していたが、明治24年、東京神田の紺屋さんが個人で所有していたものを、熊谷市中家堂の初代主人中村藤吉を中心とした数名が世話人となり購入しました。伝えられる買取金額は五百円。米一石の価格が七円の時代の話でありその快挙は永く讃えられ続けています。

熊谷市指定有形民俗文化財

筑波区

製作 昭和三十六年
寸法 (田)四、七五〇 (ワ)二、七七〇 (L)四、七八〇
山車 日本武尊
人形 青龍の図
見送り幕



初代山車は明治35年鴻巣より購入。大正5年、野本民之助義明の彫刻で二代目山車を製作。現在のは三代目。昭和36年に新調したものである。また、平成21年には塗り・彫刻・飾り金物を修復し、平成29年には上段四方幕「白鳥の図」、下段三方幕「青龍の図」を新調し、10年をかけて山車の大改修を行い現在に引き継がれている。

銀座区

製作 平成六年
寸法 (田)四、九五〇 (ワ)二、九三〇 (L)五、〇〇〇
山車 熊谷次郎直実公
人形 桐と鳳凰
見送り幕



銀座区では、大正13年に製作された屋台を使用していたが老朽化に伴い、平成6年、熊谷で唯一、重厚さを増す装階を付けた現在の山車を新調する。同年、平安建都千二百周年記念「全国祇園祭山笠巡行」に招聘され、更に平成17年、江戸開府四百周年記念で復活された「江戸天下祭」に再び招聘の栄誉に与る。古の都大路、また首都東京・丸の内を直実公が、その勇姿を現し、大観衆の中、威風堂々の巡行を果たす。

彌生町区

製作 大正十三年
寸法 (田)四、五四五 (ワ)三、〇三〇 (L)四、七二二
屋台 松と鶴、波に亀
見送り幕



大正13年、彌生町百66戸・霞町25戸にて屋台を新調。しなやかな唐破風、均整のとれた優美な姿、名匠、内山良雲の美事な彫刻が屋台に栄える。昭和21年、前年の空襲で焼け野原となった市街地を当町屋台が巡行。心に響いた祭囃子は市民の励みになり、希望を抱かせ復興の力となった。彌生町区有志の心意気、囃子は、当時、音色のせ見と名高い藤沢村人見向在家(深谷)より伝承。昔は、芸妓が金棒先頭に手古舞い姿で木遣りの披露もしていた。

熊谷市指定有形民俗文化財

荒川区

製作 平成二十四年
寸法 (田)四、七九〇 (ワ)二、九〇〇 (L)五、五八〇
山車 大國主命
人形 双龍
見送り幕



昭和22年製作の屋台が老朽化し、平成二十四年、山車が完成しました。製作は創業403年で、「世界最古の打楽器店」として知られる柳浅野太鼓楽器店。北川敬彫刻師はじめ、伝統文化加賀工芸の匠を結果した絢爛豪華な仕上がりは、まさに「動く芸術品」です。記録に残っている最初の山車は「古事記」の垂仁天皇の条にある「青葉山」で、大國主を祀る庭として青葉で飾った山を造ったとあります。荒川区の山車は、この大國主尊を祀りした「動くお社」です。

伊勢町区

製作 平成三十年
寸法 (田)四、六五〇 (ワ)二、七〇〇 (L)五、〇六〇
山車 弁財天
人形 弁財天
見送り幕



昭和10年製作の初代屋台が老朽化し、二代目屋台を昭和54年に建造しましたが、安全性を確保するため、平成30年に中鉢を加えた二層式の山車としました。拵組を用いた鉢の構造が特徴の「総柵作り」の山車。車輪は「波間に番の鯉」の彫刻が施されており、二匹の鯉が伊勢町の「い」を横切っています。龍の鬼板と鳳凰の懸魚は二代目のものを引き継ぎ、人形は初代屋台が製作された昭和10年に伊勢町の守り神として祀られた「弁財天」をお祀りしました。

鎌倉区

製作 昭和二十八年
寸法 (田)四、七〇〇 (ワ)三、五〇〇 (L)五、〇〇〇
屋台 松と火炎太鼓
見送り幕



明治29年製作の山車(人形は素戔鳴尊)は、市中電線化に伴い、明治42年越生町の黒岩町に譲られました。その後、御大典記念(大正期)として八千代号(屋台)が製作されましたが、太平洋戦争にて焼失しました。昭和28年、現2代目八千代号が製作され、今日に至ります。

仲町区

製作 昭和三十年
寸法 (田)四、七〇〇 (ワ)二、七七〇 (L)四、九〇〇
山車 素戔鳴尊
人形 天女奏楽図
見送り幕



初代(明治39年)は、花屋台を使用。昭和30年に新しく山車を製作当時弥生町にあった岡田屋という工務所で作られました。当初は一層であったが、昭和56年に中鉢を加えて二層式の山車として完成。現在に至るが老朽化に伴い、平成26年に大改修を行い、平成29年には、念願の山車人形、素戔鳴尊を製作。見送り幕には天女が描かれています。仲町の山車の屋根の上、人形の下の赤い二層幕には仲町のシンボルマークである仲に蝶がデザインされています。

櫻町区

製作 平成六年
寸法 (田)四、六〇〇 (ワ)二、五〇〇 (L)四、六一〇
屋台 大樹の櫻
見送り幕



櫻町区内では、明治の初々頃より御神輿が町内を練り歩いておりました。昭和30年代には仲町と合同で参加した時期もありましたが、40年代には分離して町内のみで参加が行われていました。地元の子供達がお囃子をするために近隣の町区へ参加していた状況を見ていた有志が中心となり、昭和54年に伊勢町区より譲り受けた屋台にて、うちわ祭に参加して現在に至っております。平成6年には、現在の屋台を新調しました。

本石区

製作 昭和十二年
寸法 (田)四、九五〇 (ワ)三、六〇〇 (L)五、〇〇〇
屋台 唐獅子牡丹子落し図
見送り幕



彫り物においても名工内山良雲氏が疫病退散の祈りを込めて彫られ、唐獅子牡丹を基調とした屋台である。お囃子は深谷市藤沢より伝承し、今日に至っている。上部・立体的な唐獅子が飾られている。下部・唐獅子牡丹が屋台を一周彫りめぐらされている。

石原区

製作 昭和十二年
寸法 (田)四、九五〇 (ワ)三、一〇〇 (L)四、九〇〇
屋台 鶴と亀
見送り幕



昭和12年に石原三丁目屋台として、総代2名の他41名の方が建設委員となり新造。四方破風屋根を持ち、鬼板は八岐大蛇、各懸魚には四神(正面に青龍・後ろに白虎・左に朱雀・右に玄武)が施されている。お囃子は、元々、深谷の小台より職人が来てお囃子をしてきたものを地元有志に引継がれ、昭和51年より若連睦会がお囃子を伝承している。

渡御祭・初叩き合い



渡御祭
 時間 午前6時
 場所 本宮・市街地・行宮

A 渡御祭は、発興祭・途上奉幣祭・着興祭の3つの神事で構成され、愛宕八坂神社(本宮)から旧市街地8ヶ町を通り、途中の東西南北4ヶ所で地域を浄め、お祭り広場に設置された御飯屋(行宮)まで神輿が巡幸します。各町の若頭総勢100人が白丁をまとい御飯屋に向けて巡幸します。途中、各町が迎え太鼓で神輿を出迎えます。

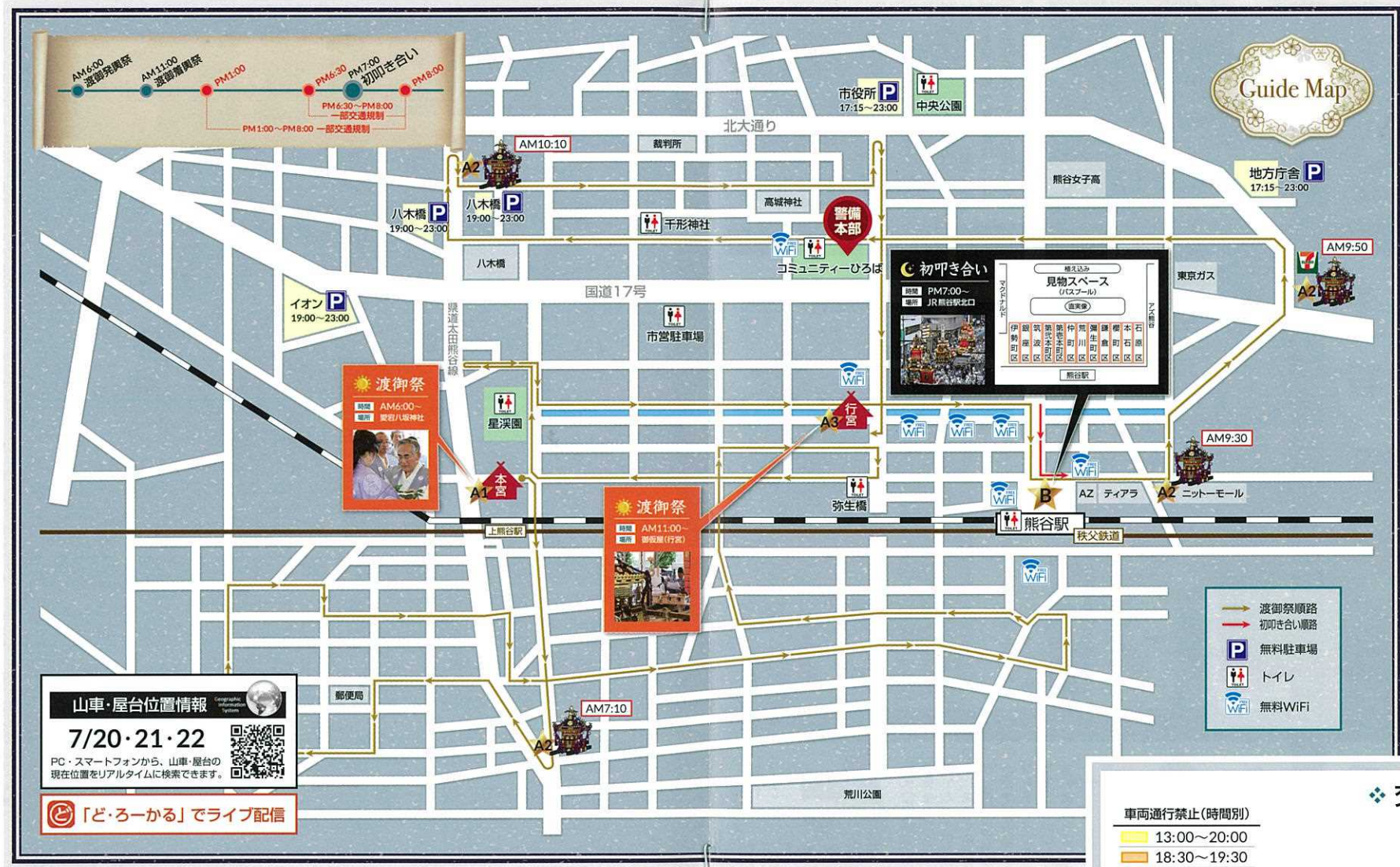
渡御発興祭
 時間 午前6時
 場所 愛宕八坂神社(本宮)

途上奉幣祭
 時間 午前11時
 場所 市街地(円4ヶ所)

渡御着興祭
 時間 午前11時
 場所 御飯屋(行宮)



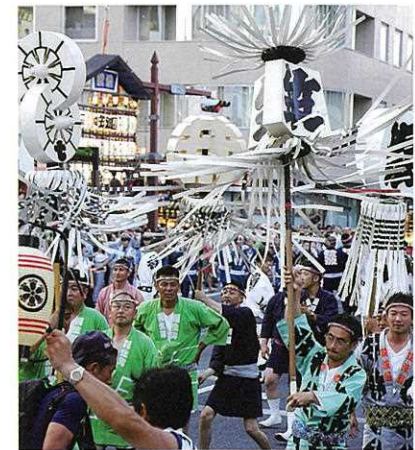
渡御祭：祭りの中心となる御飯屋(行宮)へ御輿巡幸



初叩き合い：熊谷駅北口で全町が揃い初顔合わせ

B 全町の山車・屋台は『初叩き合い』の行われる熊谷駅を目指し、星川通りに集結します。夕暮れ、提灯に火が灯された山車・屋台の前では各町の纏が振られ、年番町を先頭に星川通りから駅前通りを経由し、熊谷駅東口へと進みます。東口ロータリーを通り、北口駅前広場へと移動します。熊谷駅を背に全町が横一列に整列し、勇壮なお囃子とともに『初叩き合い』が始まります。

初叩き合い
 時間 午後7時
 場所 JR熊谷駅北口





巡行祭：山車・屋台は御宮参りの前に全町そろって待機



叩き合い：国道17号の交通規制の時間いっぱいまで叩き合い



山車・屋台位置情報
 7/20・21・22
 PC・スマートフォンから、山車・屋台の現在位置をリアルタイムに検索できます。
 「ど・ろ・かー」でライブ配信

巡行祭
 午後一時より国道17号線は、銀座から石原まで交通規制が敷かれ歩行者天国となり、山車・屋台は国道17号線を西に巡行します。最西端に本石区・石原区の屋台が待機しており、10ヶ町を迎えます。本石区・石原区の2町も合流し12ヶ町で御宮参りのため御飯屋へ向かいます。御飯屋では各町の山車・屋台が順に神前に進み、幣束を授与されます。その後、国道17号線を東へ巡行します。

清祓いの儀
 巡行祭の始めに、巡行祭の無事安全なる執行を祈り、町内全域・巡行路・祭奉仕者・関係者、来場者などすべてをお祓いし清らかにする儀式です。

巡行祭
 時間 午後12時40分
 場所 国道17号周辺



山車・屋台位置情報
 Geographic Information System
 park & ride

叩き合い
 夕暮れになり、停留していた全町の山車・屋台が動き始めます。国道17号線各所で、次々と叩き合いを繰り上げながら山車・屋台が合流し、八木橋百貨店前では全町揃って扇形となり叩き合いを行います。

叩き合い
 時間 午後6時
 場所 国道17号周辺



行宮祭・曳っ合せ叩き合い



行宮祭

時間 午前9時
場所 御飯屋(行宮)

★ 山車・屋台の巡行や勇壮な囃子のような華やかさはないが、祭りの本質である荘厳な神事の一つです。御飯屋に宮司、役員が集まり、神官の浄衣をまとった大総代が御霊の移された神輿を前に自ら祝詞を奏上、玉串を奉奠し神の加護を祈願します。



曳っ合せ叩き合い

時間 午後8時
場所 お祭り広場

★ 午後6時より国道17号線は交通規制となり、各所で祭りの終わりを惜しむかのように多くの叩き合いが行われます。徐々に12基の山車・屋台が最後の叩き合いの地であるお祭り広場周辺に集まってきます。市役所入口交差点で扇形に整列し叩き合いを行った後、お祭り広場の四方に移動し、「年番送り」と「曳っ合せ叩き合い」を待ちます。



曳っ合せ叩き合い：勇壮な囃子が夏の夜空に響き祭はクライマックス

山車・屋台位置情報
7/20・21・22
PC・スマートフォンから、山車・屋台の現在位置をリアルタイムに検索できます。

交通規制 & 迂回路
車両通行禁止(時間別)
13:00~22:00
18:00~21:00

還御祭
時間 PM11:30~
場所 御飯屋(行宮)

還御祭
時間 AM2:00頃~
場所 本宮

曳っ合せ叩き合い
時間 PM8:45~9:30
場所 お祭り広場

曳っ合せ叩き合い
時間 PM8:00頃
場所 市役所入口交差点

行宮祭
時間 AM9:00~
場所 御飯屋(行宮)

還御祭
時間 PM11:30~
場所 御飯屋(行宮)

還御祭
時間 AM2:00頃~
場所 本宮

曳っ合せ叩き合い
時間 PM8:45~9:30
場所 お祭り広場

曳っ合せ叩き合い
時間 PM8:00頃
場所 市役所入口交差点

行宮祭
時間 AM9:00~
場所 御飯屋(行宮)



還御祭：祇園会による神輿巡幸

還御祭

時間 午後11時30分
場所 御飯屋(行宮)

★ 還御祭は、発興祭と着興祭の2つの神事で構成され、行宮から本宮まで神輿をおかえしするための巡幸です。日付も変わる深夜、再び関係者が御飯屋に集まり「発興祭」が執り行われ、午前0時、熊谷祇園会員約300人によって、神輿が本宮まで担がれます。本宮にて最後の神事「着興祭」が執り行われ、3日間におよぶ祭のすべての祭礼行事が終了します。

年番送り

お祭り広場の四方を山車・屋台が囲み、多くの観客に見守られながら年番町、迎え年番町がステージに上がります。前年大総代による口上の後「年番札」が送り渡されます。



交通規制 & 迂回路

車両通行禁止(時間別)
13:00~22:00
18:00~21:00

迂回路
パーク&ライド
臨時バス停

熊谷スポーツ文化公園
ラグビー場
くまがやドーム

17号バス
18号バス

park & ride
「熊谷スポーツ文化公園」臨時駐車場とお祭り会場間を15分~20分間隔で無料送迎バスが運行します。

交通規制時間前後は大変混雑が予想されます。お車をご利用の際はご注意ください。

私たちは熊谷うちわ祭を応援しています。

			一般社団法人 熊谷市医師会
熊谷市歯科医師会	医療法人 熊谷総合病院	一般社団法人 熊谷薬剤師会	コカ・コーラ ボトラーズジャパン
まっすぐ、あなたへ。 埼玉縣信用金庫	新しいつなぐで、未来を拓け。 埼玉りそな銀行	この出遣いが生涯のおつきあいとなりますように サンアイグループ	JR東日本
JFE 建材 株式会社 熊谷工場	J:COM 熊谷・深谷	JTB 感動のそばに、いつも。	SEKISUI HOUSE
損保ジャパン日本興亜	一生運のパートナー 第一生命 Dai-ichi Life Group	秩父鉄道	東京海上日動
NISSO 日総工産株式会社	日本生命 NISSAY	Haier ハイアールアジア R&D 株式会社	馬車道グループ
ファイブイズホーム	富士電機 Innovating Energy Technology	Belc ベルク	MITO 水戸証券
武蔵野銀行	MORINAGA	「モラリスト×エキスパート」を育む。 立正大学	富士住建 Fuji Juken

熊谷うちわ祭
Access Map

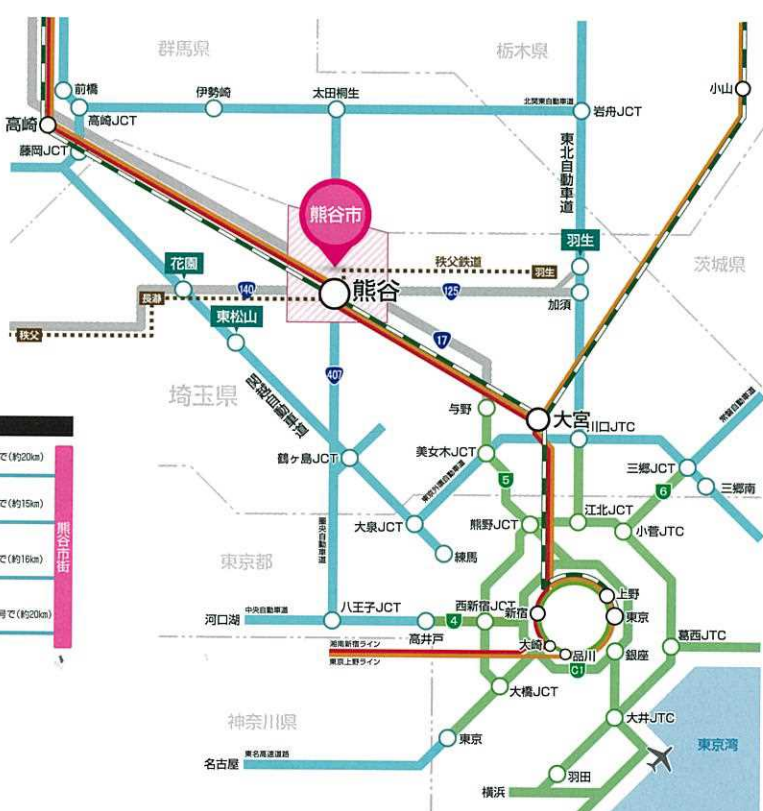


電車利用の場合

- 東京から上越新幹線で40分
東京 → 大宮
- 新宿駅から湘南新宿ラインで70分
新宿 → 池袋 → 大宮
- 東京駅から東京上野ラインで60分
東京 → 上野 → 大宮
- 高崎駅から上越新幹線で18分
高崎 → 熊谷
- 秩父方面
秩父駅 → 秩父鉄道 → 熊谷
- 羽生方面
羽生駅 → 秩父鉄道 → 熊谷

車利用の場合

- 東京から東北自動車道で(約40km) → 国道125号で(約20km)
川口JCT → 羽生IC
- 東京から関越自動車道で(約40km) → 国道407号で(約15km)
練馬IC → 東松山IC
- 高崎から関越自動車道で(約31km) → 国道140号で(約18km)
高崎JCT → 花園IC
- 宇都宮から東北自動車道で(約64km) → 国道125号で(約20km)
宇都宮IC → 羽生IC



交通ガイド

熊谷市は埼玉県北部にあり、鉄道はJR湘南新宿ライン・JR東京上野ライン・秩父鉄道・上越新幹線が乗り入れます。お車でお越しの方は、東北自動車道・関越自動車道が便利です。一般国道も17号・125号・140号・407号等、どの方面からのアクセスも容易です。お車をご利用の場合、パーク&ライドをお薦めします。熊谷スポーツ文化公園(無料駐車場)よりお祭り会場(熊谷駅)まで無料送迎いたします。うちわ祭の中心となる「お祭り広場」は、熊谷駅より北西500mほどに位置し、「行宮」が設置されます。まず「行宮」にお詣りをして「うちわ」を頂戴しましょう。

